

研究指導教員の決定方法について

電子物理工学分野 博士前期課程

■研究指導教員の役割

研究課題について、個々の学生の能力に応じた課題の決定を行い、研究指導をおこなう。

■希望調査について

志願者は、募集要項の担当教員表等をもとに、事前に希望する教員への研究室訪問や面談を行い、出願書類の志望理由書に「入学後の研究希望内容」を記載する。

■研究指導教員の決定について

入試時の面談及び出願書類の志望理由書に記載の「入学後の研究希望内容」ならびに面談での質疑応答をもとに、分野内での合否予備判定会議において、一人以上の研究指導教員を決定する。

■副指導教員制度

主任ならびに副主任が、直接の指導教員と協力し、進路指導や、研究内容以外の相談に応じる。

■研究指導計画

各研究グループ内において、研究指導教員が中心となって研究計画を1年次当初に立案し研究指導計画書を作成する。

研究の経過については、年2回の中間報告会を行い、研究の進捗と計画の見直しを適宜行い、必要に応じて研究計画報告書を作成する。修士論文の作成は、概ね2年次10月から取り組み、2月の指定した期日までに提出し、内容についての公聴会を実施する。

研究指導教員の決定方法について

電子物理工学分野 博士後期課程

■研究指導教員の役割

博士論文の遂行にあたり、研究指針の教示と、成果についての議論を深めることにより、自立した研究者としての能力を育て、評価する。

■希望調査について

志願者は、募集要項の担当教員表等をもとに、事前に希望する教員への研究室訪問や面談を行い、出願書類の志望理由書に「入学後の研究希望内容」を記載する。

■研究指導教員の決定について

入試時の面談及び出願書類の志望理由書に記載の「入学後の研究希望内容」ならびに面談での質疑応答をもとに、分野内での合否予備判定会議において研究指導教員を決定する。

■研究指導教員の決定プロセス

大学院入学試験時に、これまでの研究成果と今後の研究計画を聴取する。これに基づき、入学後に本人の同意の上、一人以上の研究指導教員と研究課題を確認する。

■副指導教員制度

主任ならびに副主任が、直接の指導教員と協力し、研究の方針に関する指導や、研究内容以外の相談に応じる。

■研究指導計画

各研究グループ内において、研究指導教員が中心となって研究計画を年次当初に立案し研究指導計画書を作成する。

研究の進捗とその内容については、概ね年 2 回以上評価し、研究の進捗と計画の見直しを適宜行い、必要に応じて研究計画報告書を作成する。博士論文は、主査、副査に対して事前説明会を行い、指定した期日までに提出する。その後、公聴会を実施する。